



野生イノシシの豚熱陽性が増加

豚熱（CSF）は、CSFウイルスにより起こる豚やイノシシの病気で、強い伝染力と高い致死率の特徴です。治療法はなく、感染が確認されると農場内の豚は全頭殺処分となり、経営に与える影響が大きい疾病です。

CSFウイルスは、唾液・涙・糞尿に接触することで感染が拡大します。そのため、感染した野生イノシシを介して養豚場に豚熱が侵入するリスクがあります。

埼玉県では、県内で捕獲、または死亡した野生イノシシの豚熱検査を行っています。今年度の検査では、寄居町や秩父地域など、8月から3か月続けて陽性個体を確認しており、野生イノシシ間でのCSFウイルスの感染拡大が懸念されています。

イノシシによる被害分布域は拡大中

イノシシによる作物への食害、農地の踏み荒らしや掘り返しなど、深刻な被害が発生しており、農林

水産省によると、2019年の全国でのイノシシによる農作物被害金額は、約46億円に上ります。また、近年は農地だけではなく、市街地での出現も確認され、人身被害も発生しています。

CSFウイルス 拡散防止のために

CSFウイルスは、人や車が人里へ運ぶ恐れがあります。登山・BBQなどで山林に入る際は、靴底、タイヤなどに付着した土をよく落とし、可能な限り洗浄・消毒をお願いします。

県内における野生イノシシの豚熱検査頭数と陽性数
(令和4年4月～10月)

	検査頭数 (頭)	陽性数 (頭)
4月	27	0
5月	59	0
6月	46	0
7月	50	0
8月	68	1
9月	99	3
10月	97	4